

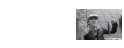
「恥ずかし気もなく、デザインが好き。」
優しい繊細な表情に隠れた、強い気持ち。

橋本 祐典

建築設計系会社員・HASHI DESIGN WORKS 主宰

D&E P A R T M E N T のパティーで、ギターを背負った新島くんと同様のケイコさんを偶然にも見かけたのがきっかけ。もうね、誰からの紹介とかそんなじゃなくて、極めて必然に近い偶然の出会いです。その後、「新町の亭」で再会。スキャルブナイトとか餃子ナイトとか、ビール飲みながら「だ言おうちに、なんとなく友達のようにツリとすべり込んで、いつのまにやら珍味堂とかで、最高の、あそび、仲間になっちゃった。」

ふたりにとって、きっと、M 的 な「弟キャラ」って思ってるのはボクだけだったりして。



10年ちょっとぶりに釣りに。ボートがいい、ボートが。あ、釣れた魚はちっちゃいです。

橋本 祐典 (Yusuke Hashimoto)

1980年8月23日、大阪府生まれ。建築士の父、専業主婦の母の一人息子。2003年、大阪大学工学部地球総合工学科建築工学科目卒業。大阪大学フロンティア開発機構、デザイン理工学プロジェクトメンバー。2005年、大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻修了。2005年4月より西日本旅客鉄道株式会社に所属。現場事務所にて駅舎などの設計・設計監理・積算・発注業務を担当。府内某駅の改修が2007年に完成予定。その他、特合い空間の在り方に関する研究、チケットカウンターのデザインについて、デザインマネジメント手法の研究等。ストレスフルな状況に悶々としながらも、忙しい日々。特技は水泳とスキー。水泳は3歳から始め、高校まで水泳部。バタ足で後ろ向きに進める程の腕前。趣味は写真。2000年、父親から古いペンタックスの一眼レフカメラを譲り受け。写真との付き合い開始。好きな言葉は「いいものをつくることは、いい未来をつくること」。

「とにかく、あまり印象にないです。いつも、ふらふらふらふら・・・。」

田中 美奈子

コピーライター・コピーライター

「宏さんの出会いは、あまり覚えていないですね。」美奈子は淡々と語る。会社の同期という関係ではあるが、何かいつもふらふらな彼、彼女の目にはくっきりと映らなかったらしい。敬子との出会いについて尋ねると「敬子さんのことは、会ってから知ってましたよ。だって・・・。」宏は入社直後、ほぼ初対面出の同期に携帯の画像を見せ「敬子かわいいわ」と夜な夜な自慢していたらしい。「正直イヤいやっかと思いましたが、」だが次第に、彼の断固たる「愛する敬子、オーラは、美奈子に感動と尊敬と、羨望の念まで抱かせるようになる。」「いやあ、彼は逆材ですね。」「お前を、一生幸せに」とかつて言葉、嘘くさくさ言えそうな男、初めてみました。そう言ううと、美奈子はこう締めくくった。「ほんとおめでとようございます。これからもわたしに幸せをおすそ分けしてくれる。敬子さん&宏さんでいてください。」「この取材のみ代費用は莫大にかかった・・・。」



田中 美奈子 (Minako Tanaka)

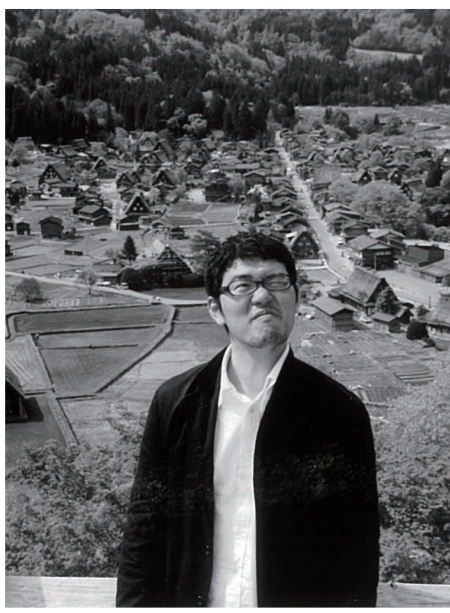
1981年6月29日生まれ。かに産。0型。雑食(納豆以外)。仙台生まれ、大阪在住。幼い頃は全国各地を転々とし、人並みに反抗期、青春時代を過ごし大学を卒業後、新部と同じ会社に勤務。名刺には一応コピーライター/CMプランナーと書いてあるが特にこれといって仕事はしていない。フルネームで呼ばれがちで「お前も来る？」っていうのに、めっぼう弱い。今は、2時間先の将来について常に模索中である。座右の銘は、特になし。夢はいつまでも、今のわたしが一番好きであること。



(D+Pでの一コマ)
「とにかくやろう」と始めたプロジェクトも今年で3年目。5年やれば、少しづつ人が認めてくれる存在になるんだろうなあ。ヒロシ・ケイコもいつかゲストで・・・。ちなみに、彼はMIXIでは、参加者数を1500人以上上回る「デザインのある暮らし」というコミュニティでも主催している。

佐藤 直之 (Naoyuki Sato)

1978年12月25日、イエスの魂を引き継いで誕生。大阪府吹田市に生まれ、千里ニュータウンにて育つ。「サッカーしたらもてるよ」という姉の簡単な一言に乗り、小・中・高校とサッカーづけの毎日を送るが、高校時代に「これで飯は食えない」と現実を悟る。その高校時代に「ばんち」という称号を授かり、「サトウナオユキ」という本名は陰を溶める。大学時代になぜか九州に上陸。美味しいお酒に魅了され、いつしか体重は70キロオーバー。高校仲間からは“デブキャラ”のレッテルを貼られることに・・・。3年前、普通のサラリーマン人生を歩みだしたが、いろんなデザインについて勉強したくなり、「何かおもしろいことをしたい。」を思っって仲間と始めたD+P (D+Pプロジェクト)。月1回のトークイベント、イベント冊子の作成、小学校でのデザイン授業を通じて、日々素敵な出会いと感性を求めて行動中。



「ロシが好きだ」と相談してくれた、高校時代のケイコの言葉思い出す。「ケイコがいるから大阪に残る」と打ち明けてくれた予備校時代のロシの言葉思い出す。そして、2006年1月1日君たちから聞いた。結婚。という言葉が、僕のココロの中で大きく影を落とす。2人との凝縮した思い出が次々に飛び出した。本当におめでと、こころまでお互いの事を敬し愛し合う。2人の存在。に僕はまだ出会ってない。そして僕の生き方に影響を与え続ける。2人の存在。も僕は知らない。そう、2人だからこそ感じるロシとケイコの存在。当たり前の事だけれど、2人だからこそ「なんだよ君たちは、すっずっ」と・・・。

佐藤 直之

リーマン・デザイナー (D+P) プロジェクト) 主催

「頼まれると断れないんだと思う。」
期待に応えることが何よりも嬉しいことだから。